

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先 025-375-1050(内線6910)

年度	令和5年度
施設名	新潟市月潟地区公民館 所管部・課 教育委員会中央公民館
施設の設置目的	市民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的に、公民館を設置する。

当初予算(千円)	当初人員(人)	作成日	R5.7.25
歳入	126	正職員	2(1)
歳出	4,675	会計年度任用職員	0
		修正日	
		評価日	R6.7.24

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	R2実績	R3実績	R4実績	R5目標					R5結果
1	市民	主催事業を広報することにより認知度を高め市民が参加し易いよう利便性を図ります。	地区内無線放送等で広報実施。 単位：(回)	23	20	20	15	26	職員数1名減により講座数減を考慮し目標値を設定した。	月寿教室、つきがた映画むら、世代間交流、他	参加者を増やすため、チラシの町内回覧、防災無線放送、ホームページなどにより周知を行った。	B: 達成
2	市民	快適に、利用し易い施設管理につとめ、目標利用者数を達成します。	年間利用者数。 単位：(人)	1,415	1,751	1,442	1,400	2,248	コロナによる人数制限等は無かったが、職員数1名減により講座数減を考慮し目標値を前年程度に設定した。	主催事業、貸し館業務	公民館利用を積極的にPRし、目標を達成した。	B: 達成
3	市民	快適に、利用し易い施設管理につとめ、目標稼働率を達成します。	各部屋の年間平均稼働率。 単位：(パーセント)	5.6	5.9	9.7	9.7	9.6	コロナ前の例年並みの目標値を設定した。	主催事業、貸し館業務	利用者は増加したが、稼働率が目標を0.1ポイント下回り、目標を達成することが出来なかった。	C: 未達成
4	市民	利用者からの苦情・要望に対して迅速かつ適切に対応します。	クレーム対応を勤務日5日以内に回答。 単位：(回/5日)	0	0	0	0	0			クレーム対応事例なし。	B: 達成
5	市民	市民ニーズに対応した事業の展開を図ることから、事業参加満足度80%を目標とします。	事業に対するアンケート満足度。 単位：(パーセント)	90	94	90	90	99	例年並みの目標値を設定した。	女性セミナー、ミュージックメイク、料理教室、月寿教室、伝統文化継承事業、チャレンジキッズ	参加者からは、おおむね良好な評価をいただいた。	B: 達成
6	財務	業務の効率化を図り、施設利用者一人当たりの運営費の削減を図ります。	利用者一人当たりの施設維持・運営費。 単位：(円)	3,532	2,703	3,401	3,400	2,112	コロナによる人数制限等は無かったが、職員数1名減により講座数減を考慮し目標値を前年程度に設定した。	維持管理費	利用者数が増加し、目標を達成した。	B: 達成
7	業務	安全確保体制の確立から、防災訓練を実施します。	消防防災訓練年2回以上。 単位：(回)	2	2	2	2	2		防火訓練	有事に備え防火訓練を実施した。	B: 達成
8	業務	安全確保体制の確立と適正な施設維持管理で事故発生を防止します。	事故件数年間0件。 単位：(件)	0	0	1	0	0		施設の点検整備や維持管理	管理の徹底により、事故発生を防止した。	B: 達成
9	人材	職員研修を実施し市民ニーズに対応できる資質の向上を図ります。	1回以上の職員研修実施。 単位：(回)	5	5	5	5	5		公民館職員研修等	研修により、職員資質の向上と情報共有を図った。	B: 達成
10	人材	公正な職務の遂行や法令遵守などコンプライアンス研修を実施します。	1回以上のコンプライアンス職員研修実施。 単位：(回)	1	1	1	1	1		コンプライアンス研修等	研修により、職員資質の向上と情報共有を図った。	B: 達成

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に対応した事業を推進するために、積極的に地域に出かけ情報収集に努めるとともに、職員研修などで資質の向上を図り事業参加者の満足度向上を目指します。また、事業の認知度を高めて市民が参加し易いように活発な広報活動を行います。 ・適切な施設の維持管理に努めるとともに、利用者からの苦情・要望に対して迅速かつ適切に対応し利用し易い施設に努め、稼働率、利用者数の向上を目指します。 ・業務効率化と運営費節減に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適で利用しやすい施設を心がけたことにより苦情は無かった。 ・職員研修により職員の資質と情報共有に役立ったほか、コンプライアンス研修はコンプライアンス意識の高揚となった。研修以外にも職場内ミーティングで情報共有に努めた。 ・新型コロナウイルスが2類から5類に分類されたことにより、コロナ禍前の状況に戻ってきたが、職員1名の減により、事業数を減らしたことから、稼働率が0.1ポイント下回ることとなり、目標を達成できなかった。